

ヨハネの福音書 第6章 68節

「すると、シモン・ペテロが答えた。『主よ。私たちがだれのところに行きましょう。あなたは、永遠のいのちを持っておられます。』」

午後三時ころになると、通りには帰宅を急ぐ子どもたちが溢れる出す。車が忙しく往来する通りだと特に注意が求められます。無邪気なまま歩道を駆けてゆく子等を車窓から見ると少々心配になります。そんななかで、赤いランドセルを背負う女の子が駆けてゆくのが見えます。信号付きの横断歩道を渡った向こう側に母親が待っています。母親の懷に飛び込むと、お互い抱きしめ合っています。いつもこうなのかな、このような迎え方をしているのかな、と微笑ましい光景にみとれます。

抱き合う二人には疑いのところが入り込む隙間が微塵も無い。懷に飛び込む女の子はすべてを母に任せます。飛び込んできた娘を母は体を張って受けとめます。二人の気持ちと体がひとつとなります。これなら交差点でも安心です。身を任せ、それを受け止める人がいます。

「主よ。私たちがだれのところに行きましょう。」あなたしかおりません、とシモン・ペテロは告白します。そのままの自分をお任せできるのは、主よ、あなただけです。あなたが私たちの主です。世界にひとりだけです。